

Creative Cloudならではの新機能を生かした、 より柔軟なデザインワークの実現とともに、ライセンス管理も省力化



「Illustratorの新機能をうまく活用して
さらにスムーズにデザインワークが進められるようになりました。」

キャラクター制作部 デザイナー O.K氏

導入製品

・ Adobe Creative Cloud グループ版

デスクトップアプリ ・ Adobe Illustrator CC ・ Adobe Photoshop CC ・ Adobe InDesign CC ・ Adobe Premiere Pro
サービス ・ Adobe Fonts

導入メリット

細かな作業もスムーズに



アニメーションズーム機能の進化で、よりスムーズな作業が行えるように

ロゴデザイン的大幅な時短



Adobe Fontsでイメージに近いフォントが利用できるようになった

“ゆめかわいい”表現も簡単に



フリーグラデーション機能で、求める表現が簡単に作成できるようになった

ライセンス管理の省力化



Adobe IDによって、ユーザーとライセンスの管理を20〜30%省力化



株式会社サンリオ

1960年設立。ソーシャル・コミュニケーション・ギフト商品の企画・販売、出版物の編集・発行、テーマパーク事業などを中心に、事業を通して「心を贈り、心を伝える」ことを理念に事業展開。「ハローキティ」をはじめ、数多くのキャラクターは日本のみならず、世界中から大きな人気を得ている。



情報システム部 長尾 恵理香氏

ハローキティ、シナモロール、ポムポムプリン、マイメロディ……世界中の人々に愛される数多くのオリジナルキャラクターを軸にしたビジネスを展開する株式会社サンリオ。Adobe製品とのつながりは長く、1990年代からIllustratorをメインに数多くのキャラクターデザインに使用されてきた。現在はCreative Cloud 2019の新機能を活用し、よりクリエイティブかつスムーズなデザインワークが可能となり、煩雑だったライセンス管理の省力化も実現している。

■ 導入の経緯

以前よりデジタル化していたデザインワークをCreative Cloudでより進めやすく

キャラクターデザインのデジタル化にいち早く取り組んだ株式会社サンリオ。その始まりは1990年代半ばまで遡る。当時は作業に際し、手描き原画をスキャナで読み取り、その画像をベクトルデータに変換し、Illustrator上で編集可能にする旧アプリケーション「Adobe Streamline」を使用していた。その後、1990年代後半にIllustrator CSを導入。以前は手描きをもとに進めていたデザインワークも、ブラシなどツール機能の進化とともにその大部分がアプリケーションのみで作業されるものへと変化している。

なお、デザインツールとしてIllustratorを選んだ背景には、キャラクターをアレンジし、多彩なアイテムに展開する同社ならではの理由がある。サンリオショップで販売しているオリジナルの商品や入園・入学準備アイテムなどを手掛ける、キャラクター制作部 デザイナーのO.K氏はこう説明する。

「使用感が手描きに近いPhotoshopで、キャラクターをベースにした絵を作成することもできます。しかし商品化を前提にする場合、さまざまな立場からデータに手を入れることが一般的です。その際に元のイメージを崩さず、データが加工しやすいツールがIllustratorでした。デジタルで作成した絵は、手描きのものよりも堅い印象になってしまうイメージがありますが、Illustratorでブラシやぼかしといったツールを駆使すれば、あえて“手描き感”を出すことも可能です。時代のトレンドに合わせられるよう、Illustratorでの表現の幅を広げていくことにこだわっています」



キャラクター制作部 デザイナー
OK氏

USER PROFILE

株式会社サンリオ

所在地：東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎

創業：1960年8月

資本金：10,000百万円（2018年3月31日現在）

従業員数：731名

事業内容：ソーシャル・コミュニケーション・ギフト商品の企画・販売、グリーティングカードの企画・販売、出版物の企画・販売、レストランの運営、映画の製作・配給・興行、ビデオソフトの製作・販売、ライブエンターテインメントの企画・公演、著作権の許諾、テーマパーク事業



詳細情報

adobe.com/go/cct



アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

■ 選択のポイント

Creative Cloudで管理業務を省力化

現在同社は、Adobe Creative Cloudに関して400という多数のライセンスを導入。これは全従業員の1/2以上がライセンスを所有する計算になる。なかでもIllustratorはデザインワークだけでなく、プランナーとデザイナー間の新商品イメージの共有など、社内のビジュアルコミュニケーションツールとしても活用されている。全社的に活用されているIllustratorだが、Creative Cloud導入以前はライセンス管理の煩雑さにもつながっていた。情報システム部の長尾 恵理香氏はこう振り返る。

「CDなどのメディアでソフトをPCにインストールしていた時代を考えると、メディア自体の管理も含めかなり省力化できています。また、ライセンスをその都度リストに登録し、インストールPCと紐づけて管理していた頃を考えると、誰に付与しているか一目で分かるCreative Cloudのライセンス管理はとても楽ですね。異動時の管理台帳修正などの手間を考えると2、3割は業務が省力化できています」

■ 導入効果

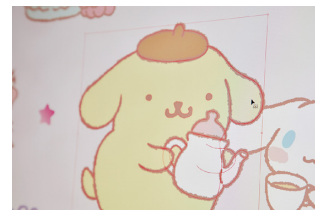
アップデートされた各機能を生かし、さらなるクリエイティビティを

2バージョン前の環境から最新バージョンへと移行し、さまざまな機能が追加／アップデートされている。OK氏も以前から使用している、スムーズに拡大・縮小が行える「アニメーションズーム」。この機能も最新版ではパフォーマンスを中心にさらに使い勝手が良くなった。

「細かな部分を描き込みたいときに、スムーズにそこに入っていける操作感が快適です。特に今回のバージョンではアウトラインモードでもアニメーションズームが行えるようになり、この機能だけでも移行する価値があると思います。グラフィックが多い場合、間隔などを随時、アウトラインモードで確認しながら行うのですが、その作業がスムーズにできるようになったことは、デザインワークの省力化に確実に貢献しています。過去バージョンと比較すると、この機能だけでも日々の作業が3、4割は効率化できていると実感しています」

また、追加された新機能の活用についても語ってくれた。

「キャラクターの背景をパステルカラーが、ふわふわと混ざり合った“ゆめかわいい”雰囲気にすることが多いのですが、『フリーグラデーション』は点や線に任意の色を置くだけで色を混ぜ合わせることができます。これまでは、ぼかしやマスクといった機能を組み合わせていたのですが、どうしてもデータが重くなってしまいます。それが機能ひとつで完結するのはとても助かります。もうひとつ、新しい機能で注目しているのが、『パペットワープ』です。キャラクターの新しいポーズを検討する場合、これまでは、まずキャラクターデータの各部パーツを切り分け、首や手を調整し仕上がりを判断するという手順を踏んでいましたが、パペットワープを使用すれば、キャラクターが持つイメージを崩すことなく、効率的にイメージを作成するのに使えそうです」



多様なフォントが自由に使える Adobe Fonts

「ロゴ制作は、ベースとなるフォントを加工して行うことが一般的ですが、Adobe Fontsによってイメージにより近いフォントが見つけられるようになったことは、省力化に確実に貢献しています。また社内会議用に、イメージに近いフォントが仮置きできるようになったこともメリットです」（OK氏）

■ 今後の展望

各部署からのリクエストで、さらなるCreative Cloudの活用を検討

Creative Cloudはデザイン制作部署だけではなく、ほかのセクションからも注目度が高い。

「キャラクターの商品開発やデザインだけでなく、『いちご新聞』をはじめとする出版や、サンリオピューロランドで上映される映像制作など、幅広くCreative Cloudの活用が期待できます。実際に各セクションからPremiere ProやInDesignなどを使用し制作したいという声が出てきているので、今後さらにCreative Cloudの活躍する場面が増えてくるはずです」（長尾氏）

長きにわたりAdobe製品を使用してきたサンリオ。Creative Cloudによって今後もさまざまなキャラクター、そして楽しいアイテムが生み出されていくだろう。

※掲載された情報は、2019年6月現在のものです。